

山梨県歯科医師連盟**連盟ニュース 第44号**

□発行

山梨県歯科医師連盟 甲府市大手 1-4-1
TEL : 055-252-6481 FAX : 055-253-0854□発行人 諸角三千夫 HP : <http://ydca.jp>

□編集人 鶴田 好幸 岩間 宣仁

山梨県歯科医師連盟機関紙

平成 26 年度 関東地区歯科医師連盟役員連絡協議会

連日の暑さも一段落し秋めいた8月28日(木)茨城県水戸プラザホテルにおいて、『平成26年度 関東地区歯科医師連盟役員連絡協議会』が開催されました。当県からは諸角会長、初鹿副会長、篠原理事長、佐藤副理事長の4名が参加しました。

まず、日程に従い連盟役員協議会、日本歯科医師会大久保満男会長による特別講演『歴史から見る歯科医師会の新たな発展に向けて』その後全体協議会の順に開かれました。

連盟役員協議会では、当番県である茨城県歯科医師連盟 高野一夫会長より昨今政治に無関心な先生方が多くなっている中、「医療は政治なり政治なくして医療なし」ということで今回の協議会として連盟への未入会対策又、終身会員引き上げに伴う各県の対応について協議を行い、その後日本歯科医師連盟の見解をいただきたいと挨拶し、続いて高木日本歯科医師連盟会長、西村まさみ、島村大両参議院議員からの挨拶がありました。

協議会に対しての各県の発言要旨が述べられ、最後に茨城県より今回の協議会特に未入会対策において各県の意見をまとめ、日本歯科医師連盟に対して各県連盟会長名で要望書を提出したいとの提案が了承されました。

特別講演『歴史から見る歯科医師会の新たな発展に向けて』

日本歯科医師会 大久保 満男 会長

健康と公的医療(診療報酬改定)を中心に歯科界の15年の歴史を振り返ると、平成13年(2001年)に小泉政権が誕生し、そこから医療費抑制策が強調され、更に日歯、日歯連盟事件があつて極めて厳しい15年であったと述べられ、歯科と医科の初診料、再診料を同じ水準にするためには、平成22年度の診療報酬改定を例にとると6.83%の改定率が必要であり、そのための額は1,707億円にのぼるため到底無理であり、ちなみに平成22年度は2.09%、平成24年度は1.7%、平成26年度は0.6%の改定率であり、今後は消費税も含めた評価医療、選定医療をしっかりと考えていかなければならないと演じました。

正歯会『横内知事を囲む会』開催される

平成26年8月30日(土)アピオ甲府に於いて、正歯会「横内知事を囲む会」が47名の県歯連盟会員のご出席を頂き盛大に開催された。司会は初鹿県歯連盟副会長。県歯連盟一瀬明副会長の開会の辞から会は始まった。正歯会内藤代表の主催者挨拶に続いて、ご来賓の日本歯科医師会三塚憲二副会長、山梨県歯科医師会井出公一会長からご挨拶を頂いた。両氏からは、今任期を持って知事引退を表明している横内知事を惜しむ声が聞かれた。また、山梨県衛生士連盟会長 秋山梅花様、山梨県技工士連盟会長 千野秀一様、株式会社ミヤウチ社長 宮内啓友様、ササキ株式会社支店長 神谷義雄様のご臨席を頂いた。横内正明山梨県知事の挨拶の中で今期をもつての引退にふれ、「チャレンジ山梨などの公約の達成に見込みもつき、リニア中央新幹線の年内着工、中央自動車道の渋滞解消の具体策、中部横断自動車道南部区間の29年度開通、富士山の世界文化遺産登録、などの実現が出来た。ただ知事を続けるには体力の限界も感じ、世代交代の必要性もあり今回の決断に至った。残りの任期期間は今まで通りしっかりとやって行きたい。また、これまでの7年半、歯科医師会の先生方のご支援ご協力に大変感謝している。」と話した。質疑応答に入り、『人口減少対策について』(質問者・雨宮光昌会員)『災害対策について』(質問者・岩間宣仁)の質問が出された。先の質問に対しては、「人口減少は重要な課題、東京への人口集中も大きな原因である。山梨暮らし支援センターを有楽町の交通会館に開設し山梨への誘導を促している。また、男性の子育ての社会的整備が必要である。」と。続いての質問に対しては、「山梨県はここ何十年も大規模自然災害がない比較的安全な場所と認識している。しかし、何時来るか分からないが、もしもの備えは必要である。災害時には、自助、共助、公助があるが、まずは自助そして共助である。隣近所、地域社会の連携こそがとても大切なことである。」との回答を頂いた。また「公人の名刺に富士山の世界文化遺産登録を印刷しては！」などの要望も出された。一瀬秀文県歯連盟副会長の閉会の辞で会は終了した。

隣接された会場に於いて引き続き正歯会 懇親会が開催された。司会は県歯連盟 篠原理事長。県歯 吉田理事の開会の辞に始まり、各テーブルに知事が向向き全員と親しく話をされた。